

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00233

研究課題名(和文)戦後の日米映像メディアにおけるハワイ表象の基礎的研究

研究課題名(英文)A Basic Research on the Representation of Hawaii in Postwar Japanese and American Visual Media

研究代表者

志村 三代子 (SHIMURA, Miyoko)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：20409733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本映画における1950年代から60年代に制作されたハワイを舞台とした作品を通じて、日系一世とその子供である二世が日米開戦を契機にどのような試練と変化を経験し、それを映画がどのように描写してきたかを考察した。具体的には、二つの主要な映画である『ハワイの夜』(1953年)と『山河あり』(1962年)における最も顕著な違いは、日米開戦を契機とした移民一世とその子供たちである二世の間の葛藤が『ハワイの夜』では示唆される程度であったのに対し、『山河あり』では明確に描かれ、その対立が物語を進行させる大きな要因となっていたことが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1950年代から60年代に制作された日本映画を通じて、日系一世と二世の試練と変容を分析することで、異文化交流の複雑な側面を明らかにすることができる。また、日米開戦という重大な歴史的出来事を背景に、移民一世と二世の関係性を映画がどのように描写してきたかを明らかにすることは、当時の社会的状況や価値観を理解する手がかりとなる。さらに、『ハワイの夜』と『山河あり』の二つの映画を比較することで、同じテーマを異なる視点から描いた作品の特徴と違いを明確にし、映画製作の技法やナラティブ構造の理解を深めるだけでなく、同時期の映画におけるテーマの進化や変遷を捉える上でも重要である。

研究成果の概要(英文)：This study examines the trials and changes experienced by the Issei and their children, the Nisei, in the wake of the outbreak of war between the U.S. and Japan, and how films have portrayed these experiences through Japanese films made in the 1950s and 1960s that were set in Hawaii. Specifically, the most striking difference between the two major films, "A Night in Hawaii" (1953) and "Mother Country" (1962), is that the conflict between the Issei immigrants and their Nisei children in the wake of the war is only hinted at in "A Night in Hawaii," whereas it is clearly depicted in "Mother Country". The conflict was a major factor in the progression of the story.

研究分野：映画史

キーワード：日本映画 ハワイ 日系人 日米関係 イメージ

1. 研究開始当初の背景

これまでの日米関係を描いた映画では、日本または米国のいずれか一方の国からの視点でのみ分析されることが多かった。「冷戦期の「日米合作映画」における総合的研究」(16K02319 研究代表者・志村三代子)では、「日米合作」の視座を導入することで、日本本土の「周縁」であった沖縄が、合作映画の製作において日米を媒介する重要な役割を果たしたことを明らかにした。本研究は、ハワイと沖縄が、「本土」にとっての「周縁」であり、「本国」の事情によって翻弄され続けた共通の歴史を持つ点に注目した点において、「冷戦期の「日米合作映画」における総合的研究」の継続・発展研究として位置づけられる。さらに本研究が目指すのは、日米関係におけるハワイの特異性を、戦後の日米両国の映画/映像に描かれたハワイのイメージ分析を通して明らかにすることである。ハワイに関する研究は、政治学、地理学、文化人類学、民俗学といった多方面にわたる研究が蓄積しており、ハワイの日系人についても、当事者による自伝、聞き書き、442部隊を中心とした歴史研究などの移民研究の成果があるが、1964年の海外旅行自由化以前の日本におけるハワイのイメージ分析を対象とした研究はなされていない。本研究では、ハワイ在住の日系人の観光面での協力、日本の芸能人のハワイ興行、そして映画製作の三者の関係を重視する。なぜなら1964年の海外旅行の自由化以前の三者の活動の成果が、現在まで続く「楽園」としてのハワイのイメージ形成の源流を辿る上できわめて有効な示唆を与えてくれるからである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、占領期から1960年代後半までに計8作が製作された日本とアメリカ両国の映画/映像を、映像分析と資料調査によって、ハワイのイメージの具体像を解き明かすことである。映像メディアにおけるハワイの役割を日本からの一方的な視点だけではなく、アメリカ側の視点をも考察することによって、日米関係を架橋する役割を果たしたハワイのイメージの具体像を解き明かすことである。

3. 研究の方法

以下の3点があげられる。

1) 「日米合作映画」計8作品の映像分析(表参照)

主演スターとハワイのイメージの相関、ロケ地の特定、原作本との差異とセリフを中心に分析を行う。

製作年代	タイトル	映画会社	監督	主演
1950	憧れのハワイ航路	新東宝	斉藤寅次郎	岡晴夫、美空ひばり
1953	ハワイの夜	新東宝	マキノ雅弘、松林宗恵	鶴田浩二、岸恵子
1954	ハワイ珍道中	新東宝	斉藤寅次郎	花菱アチャコ、江利チエミ
1962	山河あり	松竹	松山善三	高峰秀子、田村高廣
1963	ハワイの若大将	東宝	福田純	加山雄三、星由里子
1963	ホノルル・東京・香港	東宝	千葉泰樹	宝田明、尤敏
1964	夢のハワイで盆踊り	東映	鷹森立一	舟木一夫、本間千代子
1968	夜明けの二人	松竹	野村芳太郎	橋幸夫、黛ジュン

2) 関係者インタビュー

生存していると思われる関係者として上記映画作品に関わったスタッフ、出演者に絞って調査を開始する。

3) 文献資料の丹念な調査

ハワイ州立公文書館、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館、ハワイ州立図書館において、日米の新聞（「ハワイ報知」「朝日新聞」「読売新聞」「毎日新聞」など）、映画雑誌（『キネマ旬報』『映画芸術』）、週刊誌（『週刊朝日』『サンデー毎日』『週刊読売』『週刊新潮』など）、原作本、映画会社のプレス、製作ノートなどを調査する。

4. 研究成果

本研究では、日本映画における1950年代から60年代に制作されたハワイを舞台とした作品を通じて、日系一世とその子供である二世が日米開戦を契機にどのような試練と変化を経験し、それを映画がどのように描写してきたかを考察した。具体的には、ハワイに移住した日系一世とその子供である二世が日米開戦をきっかけにどのような試練と変化を迫られ、それを日本映画がどのように描写してきたかを考察した。主に『ハワイの夜』（1953年）と『山河あり』（1962年）を対象に、『ハワイ報知』を中心とする当時のメディアの報道を参考にしつつ、主に日系一世と二世の関係に関する映像分析を行った。その結果、日系一世と二世の関係性の描写における二つの主要な映画、『ハワイの夜』（1953年）と『山河あり』（1962年）の違いが明確になった。両映画における最も顕著な違いは、移民一世とその子供たちである二世の間の葛藤が『ハワイの夜』では示唆される程度であったのに対し、『山河あり』では明確に描かれ、その対立が物語を進行させる大きな要因となっていたことが確認できた。これらの分析と考察については以下の媒体で発表した。

まず、おもちゃ映画ミュージアムで開催された招待講演「日本映画に現れたハワイ」では、今日出海原作の『ハワイの夜』を鶴田浩二と岸恵子主演で映画化した際に、ハワイ在住の日系人による撮影協力や日系メディアの報道を詳細に検証し、作品に対する日系人と日本人の反応の違いを紹介した。また、国際学会（International Institute for Research in Science and Technology）では、同志社女子大学の宮本明子氏との共同発表で、「What Did the Lady Forget?」と「Nights in Hawaii」における日本映画のハワイのイメージの異同点を紹介した。さらに、日芸映画祭「移民とわたしたち」での作品解説では、『山河あり』がハワイの日系人、特に一世と二世の葛藤を初めて本格的に描いた映画作品であることを紹介した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 志村三代子 名嘉山リサ
2. 発表標題 The Representation of Japanese American History in Mother Country(1962)
3. 学会等名 International Conference on Arts&Humanities (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 日本映画に現れたハワイ
3. 学会等名 おもちゃ映画ミュージアム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 Images of Hawaii in Japanese Cinema on "What Did the Lady Forget?" and "Nights in Hawaii"
3. 学会等名 International Institute for Research in science and technology
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 『八月十五夜の茶屋』にみる占領と被占領 米軍人と沖縄住民のユートピア的關係
3. 学会等名 日本英文学会第92回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 反70年安保闘争米軍協力映画『ある兵士の賭け』（1970年）
3. 学会等名 沖縄映画研究会第11回研究発表会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	名嘉山 リサ (NAKAYAMA Risa) (80455188)	和光大学・表現学部・准教授 (32688)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------